

■開設年度		■開講部局	
2019		共通教育	
■科目名			
進取の精神を学ぶ			
■英語科目名			
Learning for The Spirit of Enterprise			
■前後期	■開講区分	■科目形態	■単位数
前期	毎週	講義	2
■（28年度以降入学生）中分類		■（28年度以降入学生）小分類	
教養教育科目(教養活用科目)		統合I（課題発見）	
■（25年度以降入学生）中分類		■（25年度以降入学生）小分類	
a. 実践・判断・精神力		2. 自己確立・他者理解を学ぶ	
■（24年度以前入学生）大区分		■（24年度以前入学生）中区分	
教養科目		人間教育科目	
■受講学部学科			
全学部			
■担当教員		■担当教員所属	
劉美玲		稲盛アカデミー	
■連絡先（TEL）		■連絡先（MAIL）	
099-285-3767		k1646670@kadai.jp	
■オフィスアワー（授業時間外の対応）			
随時（ただし、事前にメールでアポイントメントを取ってください）			
■共同担当教員			
吉田 浩己、萬田 正治、坂東 義雄			
■アクティブ・ラーニング			
■アクティブ・ラーニング（「その他」の内容）			
■アクティブ・ラーニング（授業回数）			
■〈理念〉重要視する教育目標			
6. 〈実践〉 2) 課題の解決に向けて主体的に行動できる			
■〈理念〉教育目標			
1. 〈自己理解〉 1) 自身の関心・能力・価値観を踏まえて行動できる			
■〈理念〉教育目標			
3. 〈論理的思考〉 1) 幅広い視野から課題の解決策を考えることができる			
■〈理念〉教育目標			
7. 〈他者との協働〉 1) 自身の責任や立場を理解し、自覚的に行動できる			
■授業概要（目的・内容・方法）			
本授業の目的は、鹿児島大学教育目標に則し、向上心をもって自ら困難に立ち向かう態度（進取の精神）を養い、地域における活動に積極的に関わり、社会の発展に貢献できる行動力を養うことである。 本授業の内容および方法は、以下の通りである。 (1) 本学の歴史や日本の近代化を推進する過程で多くの困難に果敢に挑戦した鹿児島の若者について学び、本学が先人より引き継ぐ「進取の精神」を理解する。 (2) 鹿児島で社会の発展のために活動を展開している団体等の中で、現代社会が抱えている諸問題のうち、国際協力、平和問題、地域農業について実践する講師による講義によって、その問題と取り組む内容について理解を深める。 この講義を受けた後、受講した学生が休日や休業を活用してこれらの活動への自主的参加を決断する行為や、地域社会の現場での活動に積極的に参画するなかで、進取の精神と行動力を涵養する。			
■学習目標			
(1) 「進取の精神」の概要について理解し、説明することができる。			

(2) 「進取の精神」を継承し、困難な課題にも果敢に挑戦できる。

(3) 「持続可能な社会」の構築に貢献できる行動力を養う。

■授業計画・試験の有無（１６回〔初修語は３１回〕に分け、回数、授業内容、自学自習等）

1. ガイダンス 等
2. 「進取の精神」とは何か
3. 「進取の精神」の実践(1) 鹿児島における「進取の精神」
4. 「進取の精神」の実践(2) ユネスコ活動
5. 「進取の精神」の実践(3) 若き薩摩の群像の若者から何を学ぶか？グループワーク
6. 「進取の精神」の実践(4) 若き薩摩の群像の若者から何を学ぶか？レポートの発表
7. 「進取の精神」の実践(5) 戦争と平和
8. 「進取の精神」の実践(6) 戦争と平和
9. 「進取の精神」の実践(7) 戦争と平和
10. 「進取の精神」の実践(8) 戦争と平和
11. 「進取の精神」の実践(9) 地域農業
12. 「進取の精神」の実践(10) 地域農業
13. 「進取の精神」の実践(11) 地域農業
14. 「進取の精神」の実践(12) 地域農業
15. 「進取の精神」の実践(13) 地域農業
16. 期末試験は行わない（指定期日までにレポートを提出）

■授業外学習(予習・復習)

各授業の際に指示をする。

■受講要件	■成績の評価基準
	授業への参加度（授業態度や参画度など）：60%、 課題等提出物（リアクションペーパーやレポート、 最終レポートなど）：40%、で総合的に判断する。 学期末試験は行わない。なお、最終レポートの 提出がない場合は評価対象外とする。
■教科書	■参考書
特になし。	授業中に指示をする。
■地域志向科目の区分（平成２７年度入学生用）	■地域志向科目の区分（平成２８年度以降入学生用）

■その他

授業を受けた上で休日や休業を利用して、講師が行っている活動に自主的な参加を勧める。